

# 長中だより



第14号（平成29年12月13日発行）発行者 校長 小貫 崇明

## 【12月の生活目標】

- ・2学期の学習と生活のまとめをしよう。
- ※健康管理に気を配ろう。
- ※冬休みの計画

## ○充実の2学期～長沼の子どもたちはすくすくと！～

来週22日（金）で2学期が終了します。この82日間にそれぞれの学年で生徒一人一人が大きく伸びようと本当によく頑張りました。そして、大きな成果をたくさん残しました。

### （1）文化面での活躍

夏休み直後に行われた地区英語弁論大会には2年生3名が参加し、三島木琴子さんが創作の部で3位に入りました。また、岩瀬地区音楽祭で地区代表に選ばれた特設合唱部は、県大会において銀賞を獲得することができました。少年の主張支部予選を突破した廣田綺里さんが県大会で優秀賞を受賞しました。そして、芸術の秋。やまゆり学級の生徒の立派な作品が愛護育成会の作品展に、各学年の美術の授業で制作した優秀作品が地区造形展に展示されました。さらに、2年・室井宏太君の作品が、選挙啓発ポスター展で県の第2位にあたる優秀賞を受賞するというビッグニュースが飛び込んできました。（詳細は後日長中だより等でお伝えする予定です。）

### （2）支部駅伝大会と新人戦、ながめま一周駅伝

9月の支部駅伝大会では、男子チームが6位入賞を果たしました。また、支部新人総合大会ではバスケットボール部と卓球女子団体が3位に入ることができました。1学期に比べると満足のいく結果ではなかったと思いますが、現在特設陸上部は毎日の朝練に汗を流しており、各運動部も放課後及び土日の練習に力を入れ、実力を向上させています。来年度が楽しみです。また、11月のながめま一周駅伝では、各部活動がチームを作って参加し、秋色の長沼を風とともに走り抜けました。

### （3）長沼まつり、中学生ボランティア

今年で33回目となる長沼まつり。今年もその中心で、長沼中のねぷたと子どもたちが笑顔と活気を振りまきながらとび跳ねました。また、長沼まつりをはじめ、幼稚園や小学校の運動会、さらに地域行事には欠かせない存在として長沼中生のボランティアが活躍したのでした。

### （4）やまゆり祭2017

各学級の合唱、学年・生徒会・有志の発表に全校生だけでなく、地域の皆さんも大いに盛り上がっていただきました。今年は音響にも力を入れ、聞きやすい発表だったとお褒めの言葉もいただきました。また、先生方の歌の発表には生徒達もびっくりしていたようです。



地区中学校造形展



ながめま一周駅伝



ねぷたの前で記念撮影



やまゆり祭・3年生の発表

## (5) 小中一貫教育の充実と3学期に向けて

小学生が長沼中学校に来て陸上の指導を受けたり、中学校の先生が小学校に行き授業を行ったり、さらにはお互いの授業を参観し合ったりと、様々な小中一貫教育に関わる取組をこの2学期も重ねてまいりました。3学期も、新1年生となる現在の小学6年生が、授業や部活動を体験に長沼中学校を訪問する予定になっています。小中9カ年の教育が切れ目のない一貫したものになるよう、実践を重ねてまいります。



長沼東小での音楽の授業

## 〇いかがでしたか？「本物」のトランペットの音は…



12月2日(土)に実施したPTA教育講演会には、生徒以外の保護者・地域の皆様にも多数お越しいただき本当にありがとうございました。講師である東京フィルハーモニー交響楽団・首席トランペット奏者の川田修一先生による演奏とお話は、生徒にとって、日本のトップの音色とともに小中高時代の出会いや夢の実現に向けて努力することの大切さを感じることができる貴重な機会となったのではないのでしょうか。アンコールには、トランペットとピアノ、そして校長のコントラバスの3人による演奏もお楽しみいただきました。PTA 教養委員会の皆様には、当日の運営などお世話になりました。

## 〇第34回福島県声楽アンサンブルコンテスト

12月9日(土)、福島市音楽堂で開催されました第34回福島県声楽アンサンブルコンテストに、本校特設合唱部が参加いたしました。

3年生が引退した後、14人という少人数ではありますが、放課後や土日の練習を積み上げ、ピアノ伴奏無しのアカペラの曲に挑戦しての参加でした。惜しくも入賞は逃しましたが、この大会に参加することで県内のレベルの高いアンサンブルを聴くことができ、今回の経験を糧に、次年度の大会に向けてその表現力に磨きをかけてほしいと思います。



★大切にしたい言葉(14) 「冬があり夏があり、昼と夜があり、晴れた日と雨の日があって一つの花が咲くように、悲しみも苦しきもあって、私が私になっていく」

冬にまつわる言葉には「我慢」とか「辛抱」のようなイメージの言葉が多いですが、この言葉からは、寒いから動かないというネガティブな考え方でなく、自分を育てる栄養は一年中いろんなところにあって、あまり動けない冬(悲しみや苦しき)でさえも、自分を育てる「糧」になっているというポジティブな考え方なのです。つまり、過去のすべての経験が栄養なんです。



2学期も長中だよりを読んでいただきありがとうございました。良いお年をお迎えください。